総社観光大学

総社を全国発信する人材育成
総社観光ナビゲーター26人 巣立つ

4日間の講義を終え、受講生一人ひとりに市長が「総社観光ナビゲーター」の称号を付与

岡山県立大学を主会場に総社の観光とその魅力を学ぶ「総社観光大学」が、8月23日から26日までの4日間開学。主催した総社観光プロジェクト実行委員会は同大学で、全国に総社ファンを増やすための伝道師の育成に取り組み、修了生26人に総社観光ナビゲーターとしての称号が付与されました。

岡山県立大学を主会場に開かれた「総社観光大学」の全講義が終了した8月26日、学長を務める市長から総社観光ナビゲーターの認定証が26人におくられました。市長は、「総社の観光を県内外に伝え広める伝導師として、大いに活躍していただき、彩りのある人生を送られることを期待します」と、送り出しました。

この大学は、総社の観光のあり方を協議した総社観光プロジェクト実行委員会が、市に提出した報告書にある提案事業の一つ。昨年に引き続きの開催で、総社の観光を体験した人の言葉によって、総社ファンや訪れる観光客を増やしていこうとするものです。

民俗学者の神崎宣武さんが、「古代吉備のロマン学」をテーマに食べて・見て・体験する14の講義を設定。東京や埼玉、神奈川などを含む市内外から参加した受講生は、歴史や文化への理解を深めました。そして、神崎さんをはじめ、講師らとの交流や、受講生同士のつながりを深めながら、総社のよさや魅力を感じとっていました。

3日目の8月25日、東公民館阿曽分館で行われた桃太郎に関する講義と体験講座「備中神楽」は、公開講座として行われました。主催者の「多くの人に見て知ってもらいたい」との考えから、広く聴講生を募集。受講生のほか市民ら約50人が受講しました。

備中神楽の演目は、温羅（うら）と吉備津彦命による温羅伝説をもとにした「吉備津」。備中の国の鬼ノ城に住みつき悪事をはたらく温羅を吉備津彦命が討つ物語。影社中が舞う「吉備津」を見た受講生からは、「地方色があって素朴な感じ」、「伝え、残していきたい」といった声が聞かれました。

「皆さんに備中神楽『吉備津』の応援団になっていただき、『吉備津』を見る機会が増えていくことを願っています」。温羅伝説をもとにした演目で、総社を舞台とした「吉備津」を、総社の“うり”の一つとし、末長く大切にしようと、神崎さんが公演後に提案。総社観光大学が、単に学ぶ場だけでなく、総社の魅力を引き出したり見いだしたりする初めての機会ともなりました。市では、この提案を総社観光大学の成果として進めていきます。

総社観光大学プロデュース
神崎 宣武さん
民俗学者／東京都台東区

「備中神楽『吉備津』の応援団になってほしい」

吉備津彦命と温羅の戦いの場面。木綿の布を血吸川にみたてている

市内の影社中が演じる備中神楽「吉備津」の世界に引き込まれる受講生。備中神楽は国指定重要無形民俗文化財となっている